

以上の方が、新年の挨拶を頂きました。

2年続けて葉書をお送りしてお願いしてきましたが・・・残念です。

読む気もない、楽しみに待っている。書きたくても事情が有るならいたしかないですが、何かしら連絡下さい。なんようが妻らいいです。

発足時以来、その後寄付金の送金も無い会員の方がおります。どうしたんでしょうか。

何ら情報がないと不安です。

2023年（令和5年度）の寄付金の程よろしくお願い致します。

### お知らせ

昨年9月29日に会報作りを、鶴木宅に集まって作成した仲間で、仏壇にお参りに行ってきました。奥様にくれぐれも「久仁京介かこむ会」の皆様によりしくお伝えくださいと申しておりました。

「共に過ごした日々は私たちの宝物です」

精いっぱい働き、私たちを守り続けてくれた頼もしい大黒柱でした。笑いあった思い出がたくさん残っているのは家族思いな夫が中心にいてくれたからです。娘たちが結婚し孫が誕生すると、皆で集まることが何よりの楽しみになりました。仲良く旅行にも行ったものです。また孫息子・娘の夫たちと共に温泉に行くことも好きで、いわゆる男同士の裸のつきあいも満喫しておりました。庭の剪定をしたり将棋に打ち込んだりと、自分らしいひとときも楽しんでいました。定年後病が発症し将棋の支部に足を運べなくなるとパソコンでさすようになり、「ご飯だよ」と呼んでも食卓にやっ来て来ないくらい夢中になることも多々…。病と闘う日々の中で愛犬と散歩している姿を家の中から眺め、いつまでも元気でいてほしいと願っていました。晩年は同級生の作詞家久仁京介かこむ会を作り毎月公報を発行し、会のみなさんと共に過ごす時間を大切にしていました。私たちが元気に、穏やかに暮らしてこられたのは夫のおかげだったと感謝の想いは尽きません。彼方ではかつてのように不自由なく好きなものを味わい、駆けてゆくよう願っています。

夫 鶴木清二は、私たちの心に色あせぬ思い出をのこして令和四年七月十六日、享年八十三歳にて生涯をとじました。良きご縁を結んでくださった皆様へ、深く感謝を申し上げます。本日はお忙しい中、ご会葬頂きまして、誠にありがとうございました。略儀ながら書中をもつてご挨拶申し上げます。

令和四年七月

新潟県新潟市北区西名目所五五一―一五

妻 主 鶴木 和佳子

外 家族 一同



尚本日は何かと混雑に取り紛れ行き届きの段あしからずご容赦下さいますようお願い申し上げます

アーケベル水原 謹製